

# 文科省、グローバル化と「全入」時代を迎え、 中長期にわたる大学改革に向け始動！

中教審に大学教育の在り方を諮問。「学位プログラム」中心の大学制度、大学の量的規模、大学の機能別分化、“大学版 PISA” - 「AHELO」等が論点に

旺文社 教育情報センター 20年10月

知識や情報、技術が社会活動の基盤となる「知識基盤社会」の時代にあつて、グローバル化の進展とともに国際的な競争があらゆる分野で激しさをましている。

こうした時代にあつて、大学を取り巻く環境も大きく変化している。18歳人口の減少、「全入」時代といわれる受験生を巡る需給バランス、学生の質保証、社会的要請や産業構造の変化に対応した人材養成等々、課題は山積している。

一方、先に策定された『教育振興基本計画』（20年7月）では、20年度から24年度までの「5年間を高等教育の転換と革新に向けた始動期間と位置づけ、中長期的な高等教育の在り方について検討し、結論を得ることが求められる」とされている。

文部科学省（以下、文科省）はこれを受け、中央教育審議会（以下、中教審）に『中長期的な大学教育の在り方について』を諮問し、中長期にわたる抜本的な大学改革に向けて始動した。

## ■ 中教審への諮問 ■

鈴木恒夫・前文科相は20年9月、次の3本の審議事項を柱とする『中長期的な大学教育の在り方について』を中教審（会長・山崎正和）に諮問した。

1. 社会や学生からの多様なニーズに対応する大学制度及びその教育の在り方について
2. グローバル化の進展の中での大学教育の在り方について
3. 人口減少期における我が国の大学の全体像について

## ○ 審議事項と論点

中教審大学分科会では上記の諮問を受け、3本の審議事項について次のような項目を設け、その論点を例示している。

### 1. 社会や学生からの多様なニーズに対応する大学制度及びその教育の在り方について

#### (1) 社会や学生からの多様なニーズに対応する大学教育の在り方

- ・社会等からの多様なニーズに対応する大学教育の内容の在り方  
(例：将来の社会的ニーズを見込んで充実すべき教育内容等)
- ・今後、高齢者を含む幅広い年齢層の者等を大学教育の提供の対象としていくこと及びその際の教育内容・方法等の在り方
- ・情報通信技術の進展を踏まえた教育形態の在り方(通信制と通学制との区分を存続することの是非、寄宿舎制等の新たな形態等)

#### (2) 多様なニーズに対応する大学教育を実現するための「学位プログラム」を中心とする大学制度及びその教育の再構成

- ・学位を取得するために必要となる、明確な教育目標の提示、それに基づく体系的カリキュラムの構成及び厳格な成績評価等が実施されるような、限定された分野・領域別の「学位プログラム」を中心とした仕組み
- ・「学位プログラム」の標準化(例：学位の分野の見直し、標準的な教育課程と共通教材の作成等)

- ・「学位プログラム」を中心とした仕組みにした場合、教職員及び学生の所属組織、全学的又はプログラム別の教育課程のガバナンス体制、設置基準・設置認可、分野別の評価及び学生の履修の支援体制等の在り方

**(3) 社会的要請の特に高い分野における人材養成**

- ・医療、獣医学、IT 又は知的財産など、社会的な要請の特に高い専門的人材の計画的な養成、当該分野における教育課程の充実、教育活動の評価、社会との連携等の在り方

**(4) 多様なニーズに対応する大学教育を実現するための質保証システムの在り方**

- ・準則化以後の設置基準・設置認可の課題及びその在り方の見直し
- ・大学教育の形態別、学位段階別又は学問分野別に応じた評価システムの在り方
- ・自己点検・評価、認証評価等の各評価システムの在り方及び省力化等
- ・学生が到達すべき学習成果の評価及び単位の算定方法等(他、省略)

**(5) 多様なニーズに対応する大学教育を実現するための学生の履修を支援する方策**

- ・多様なニーズを有する学生に対する、きめ細かなカリキュラムの履修指導やキャリア・ガイダンス等の総合的な学生支援の在り方
- ・奨学金、授業料減免、民間機関のローン等を通じた学生への経済的支援方策の在り方(他、省略)

**2. グローバル化の進展の中での大学教育の在り方について**

**(1) 大学の国際競争力の向上のための方策**

- ・大学の国際競争力の向上の意義
- ・大学の国際競争力の向上のために必要な方策の在り方

**(2) 大学の評価における国際的な視点の導入と、世界的規模での大学に関する評価活動への対応**

- ・大学教育の国際的な質の保証及び国際的通用性の確保の観点から、諸外国の基準を我が国の設置基準に取り込むことの是非
- ・大学の設置認可や認証評価等の様々な評価活動において国際的通用性の確保の観点から諸外国の評価項目等を取り入れることについて
- ・AHELO(OECD 高等教育における学習成果の評価)等の様々な国際的な質保証の取組みに対する我が国の対応の在り方
- ・国際的な大学ランキング活動に対する対応

**(3) アジア域内等の国際的な学生・教員の流動性向上の促進等**

- ・アジア域内で、国際的な学生・教員の流動性をより一層高める方策を導入する可能性(他、省略)

**3. 人口減少期における我が国の大学の全体像について**

**(1) 人口減少期における大学全体の健全な発展の在り方**

- ・今後の少子高齢化社会及びグローバル化の進展の下での将来の我が国の大学の量的規模
- ・留学生、社会人又は高齢者等を対象とする大学教育の規模の見込み及び国際的な比較における我が国の大学進学率の現状
- ・人口減少期における我が国の大学の果たすべき役割、及び機能別分化等を通じた我が国の大学の健全な発展等に関する将来像(例：機能別分化に基づく各大学の大学院・学部の定員のバランス等)
- ・人口減少局面において、大学の自主的な入学定員の見直し又は学部・学科等の再編・縮小等を促す仕組みの導入の是非
- ・準則化以後の設置基準・設置認可の課題、及び公財政支出の効果的・効率的な活用と設置認可とのバランス等

**(2) 大学の機能別分化の促進と大学間のネットワークの構築**

- ・大学の適正規模及び個性化・特色化を通じた機能別分化の在り方、ならびにそのための公財政によるバランスの取れた支援方策
- ・各大学の人的・物的資源の全国共同利用化及び有効活用等の促進方策

- ・国公私を通じた大学間連携(大学コンソーシアム等)の促進方策
- (3) 全国レベルと地域レベルのそれぞれの人材養成需要に対応した大学政策の在り方
- ・全国レベル及び地域レベルにおける計画的な人材養成の在り方及び当該人材養成需要に対応した大学政策の在り方
  - ・大学の教育研究活動に関する「地域性」と「国際性」のバランス

## ○ 作業部会とWGの設置

中教審大学分科会では、審議の内容が広範囲に及び、各種の調査・分析や専門的な検討を行う必要があるため、「大学教育の検討に関する作業部会」を設置。さらに、具体的な調査、分析、検討を行うために、次のような13のワーキンググループ(WG)を設けている。

### ●作業部会に設置するワーキンググループ

	ワーキンググループ(WG)名	所掌事務
1	OECD高等教育における学習成果の評価(AHELO)に関するWG	今後のOECD高等教育における学習成果の評価(AHELO)への対応に関する事項について、専門的な調査審議を行う。
2	専門的人材養成の在り方に関するWG	医療系人材、獣医師、IT、知的財産等、検討を必要とする分野の決定と、分野を横断した論点整理を行う。(このWGに、さらに分野別の検討を行う組織の設置を想定)
3	学位プログラム検討WG	教育課程や学内組織に関する国内外の事例収集と分析を行う。
4	通信制と通学制の大学に関する検討WG	メディアを活用した教育の在り方とその質保証、通信制と通学制の区分の存続の是非等について検討を行う。
5	質保証システム検討WG	諸外国における設置基準・認可、ア krediteーション等の事例収集と分析を行う。
6	学生支援検討WG	学生への修学支援や経済的支援等の在り方について論点整理を行う。
7	資料調査整理WG	様々な調査に関する新規企画と整理を行う。
8	大学グローバル化検討WG	大学の国際競争力向上に関する国内外の取組みに関する事例収集と分析を行う。
9	国際的な大学評価活動に関するWG	国際的な大学ランキング活動に関する対応について国内外における事例収集と分析を行う。
10	高等教育規模分析第1WG	大学進学率の国際比較や、地域分析、社会人や留学生の大学人口の見込み等に関する分析を行う。
11	高等教育規模分析第2WG	大学設置認可の現状や、近年の大学拡充の傾向に関する分析を行う。
12	全国共同利用検討WG	大学の教育活動に関する人的・物的資源の有効活用に関する事例収集と分析を行う。
13	地域における人材養成需要検討WG	地域における人材需要に関し、事例収集と分析を行う。

## ■「大学版 PISA」―「AHELO」への参加■

OECD(経済協力開発機構)は、持続ある経済発展と生活水準の向上には“教育が不可欠”であるとして、15歳児を対象とした国際学習到達度調査(PISA ; Programme for International Student Assessment)を2000年から3年おきに実施し、日本も参加している。

さらに、OECDでは高等教育の拡大や国際化の進展に伴い、高等教育の多様な質を評価することが重要であるとし、「AHELO ; Assessment of Higher Education Learning Outcomes」(高等教育における学習成果の評価)に関する国際的な実施の可能性を探るフィージビリティ・スタディ(feasibility study ; 試行的に試験を行い、本格的な実施可能性を明らかにすること)の実施を提案している。

## ○ フィージビリティ・スタディの構想

### (1) 実施分野

- ① 一般的技能: 専門分野に限らず普遍的に養われるべき能力―批判的思考力や分析的論理づけ能力、問題解決能力、筆記コミュニケーションについて学習成果を測定

- ② **分野別技能**：当面は工学、経済学で実施し、将来的に対象教科を増やす方向で検討
- ③ **付加価値**：測定の適当な観点として、科学・技術・工学、医療職に関連する職業能力の測定や、大学入学直後の CLA(アメリカの教育支援審議会が実施する批判的思考力や分析的論理づけ能力、問題解決能力、及び文章表現力の評価)を受験した学生を継続調査して成果を比較測定
- ④ **背景情報**：既にヨーロッパで応用されている次のような指標を活用するほか、学生層の社会経済的な構成や、学生自身の高等教育を受けた経験の感想、卒業生の労働市場での成果などの特性を測定
  - ・ 学術研究及び教育(学生交流、カウンセリング、eラーニング環境、学習環境と授業の評価)
  - ・ 設備(IT インフラ、図書館、コンピュータ室、図書・雑誌費、教室環境)
  - ・ 国際化志向(留学サポート)
  - ・ キャリア志向(職業関連プログラム、実習のサポート)
  - ・ 研究(博士授与数、業績、外部資金獲得状況)
  - ・ 立地(スポーツ、住居費、大学規模)
  - ・ 総合評価(学習状況、教育研究環境に関する評判、研究に関する評判)
- (2) **参加国・参加機関**：各分野について、約4カ国からそれぞれ10機関程度の参加を予定
- (3) **実施期間**：2008年～2010年
- (4) **参加表明国**：オーストラリア、韓国等、7カ国が参加を表明(2008年9月現在)

#### ○ 日本の参加

日本もこのフイージビリティ・スタディへの参加を表明(OECD 非公式教育大臣会合、20年1月)していたが、前述の「OECD 高等教育における学習成果の評価(AHELO)に関するWG」はこのほど、次の分野で優先順位をつけて参加を OECD に申し入れた。

- ① **工学** / ② **背景情報(学生の受けた設備などの学習環境)**
- ③ **一般的技能(批判的思考力や問題解決能力など)** / ④ **経済学**

今後、OECD からの回答を踏まえ、参加大学(機関)等の選定や調査結果の公表、活用などについて WG で検討、議論していく。OECD の調査結果は、前述した「大学教育の在り方」の見直しにも反映されることになる。

#### ■ 諮問の背景と答申への期待 ■

今回の中教審への諮問の背景には、前述したように『教育振興基本計画』がある。大学教育の在り方についてはこれまで、中教審答申で度々提言されてきたが、概して理念的な提起が中心であったといえよう。今回予定される答申では、大学の抜本的なシステム改革や施策、財政などについて、これまで以上に具体的なデータや事例などを織り交ぜた“エビデンス・ベースド”による提言が期待される。大学分科会の作業部会に13にも及ぶWGが設置されたのは、そうした期待に応えるためともみられる。

また、人口減少期における入学定員の見直しや再編・縮小等の促進など、大学の量的規模や機能別分化、公財政支出の効率的・効率的な活用などについて、中教審や国(文科省)はこれまで基本的なスタンスの提示に留まっていた。特に私立大の半数近くが「入学定員割れ」に陥り、経営基盤の悪化が進んでいる現状で、こうした課題にどこまで踏み込んだ具体的な提言となるのか、注目されるどころだ。